



平成 17 年 11 月 17 日

各 位

会社名 川 田 工 業 株 式 会 社
 代表者名 取 締 役 社 長 川 田 忠 裕
 (コード番号 5931 東証・大証 第 1 部)
 問合せ先 常務取締役経理部長 渡 邊 敏
 T E L (03)3915-4325

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 5 月 23 日の決算発表時に公表いたしました平成 18 年 3 月期中間業績予想(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)及び平成 17 年 6 月 15 日の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました平成 18 年 3 月期通期業績予想(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期中間業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 17 年 5 月 23 日発表)	33,000	200	70
今 回 修 正 予 想 (B)	30,530	120	30
増 減 額 (B - A)	2,470	320	100
増 減 率 (%)	7.5		
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 3 月期中間)	33,044	795	4,733

2. 平成 18 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 17 年 5 月 23 日発表)	45,000	400	300
今 回 修 正 予 想 (B)	41,100	170	110
増 減 額 (B - A)	3,900	230	190
増 減 率 (%)	8.7	57.5	63.3
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 3 月期中間)	45,643	1,412	2,269

3. 平成 18 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 17 年 6 月 15 日発表)	71,500	400	400
今 回 修 正 予 想 (B)	74,000	200	70
増 減 額 (B - A)	2,500	600	470
増 減 率 (%)	3.5		
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 3 月期)	73,324	119	4,356

4. 平成 18 年 3 月期連結業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 17 年 6 月 15 日発表）	104,000	700	200
今回修正予想（B）	104,000	1,000	300
増減額（B - A）		300	100
増減率（％）		42.9	50.0
（ご参考） 前期実績（平成 17 年 3 月期）	105,485	3,488	16

5. 修正の理由

（1）単体

中間期の売上高につきましては、中間期の受注高において鉄骨部門並びに建築部門の伸びにより前年度中間実績を上回るものの、橋梁部門、建築部門工事の工期延伸等による完成時期の遅れにより 2,470 百万円程度前回予想を下回り 30,530 百万円程度となる見込であります。通期では、民間部門等の受注増を背景に、前回橋梁部門の落ち込みを見込んだ予想を 2,500 百万円程度上回り 74,000 百万円程度となる見込みであります。

また、中間期の経常利益につきましては、売上高が当初見込みを下回ることに加え、受注工事に係る将来の損失に備える為、当中間会計期間末で損失が発生すると見込まれる未引渡工事について、損失見積額を完成工事原価に 670 百万円程度計上したこと等により 320 百万円程度前回予想を下回る見込であり、中間純利益につきましては、特別損失においても工事損失引当金繰入額 224 百万円を計上したものの、関係会社の業績回復により貸倒引当金戻入額として 482 百万円程度の特利益等を計上した結果、前回予想より 100 百万円程度の減少に留まる見込であります。通期におきましては、橋梁部門の受注減少に伴う売上高減少並びに操業度低下による損失を見込んでおりましたが、民間部門の受注増により経常利益では 600 百万円程度、当期純利益も 470 百万円程度前回予想を上回る、それぞれ 200 百万円、70 百万円程度となる見込みであります。

（2）連結

中間期の売上高につきましては、当社の単体業績予想の修正に加え、連結子会社の川田建設（株）の売上高が中小型工事受注の伸び悩み及び納期延伸等の影響を理由に減少した為、3,900 百万円程度前回予想を下回る見込みとなりましたが、通期におきましては当社の売上高増加の見込みにより前回予想程度となる見込みであります。

中間期の経常利益におきましても、当社の単体業績予想の修正に加え、連結子会社である川田建設（株）の経常損失 917 百万円の計上があり、佐藤工業（株）の持分法による投資利益 1,096 百万円等の寄与があるものの、前回予想を 230 百万円程度下回る見込みであり、中間純利益も 190 百万円程度下回る見込みであります。通期におきましては当社の収益回復見込に伴い、経常利益で 300 百万円程度、当期純利益で 100 百万円程度前回予想を上回り、それぞれ 1,000 百万円、300 百万円程度となる見込みであります。

なお、当社における公正取引委員会の排除勧告応諾により発生する課徴金等につきましては、現時点では金額を合理的に見積ることが困難な為、今回の業績予想には織り込んでおりません。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を基に作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以上